

〔文学篇〕

【論文】

C'est pour quand ?— 予定の時点・期間を示す前置詞 *pour* と動詞 —

市川 雅己

C'est pour quand ?

— « Pour » marquant le terme prévu dans le temps et les verbes —

Masaki ICHIKAWA

要旨 (Abstract)

Le «pour» de cet emploi a comme supposition que son terme prévu aurait changé, soit réduit, soit prolongé. La condition nécessaire et suffisante de la cooccurrence de ce «pour» et les verbes est ce qu'il peut y avoir un contexte qui empêche le procès verbal de recouvrir tout le terme prévu par le «pour». La distinction des verbes «telic/atelic» ne serait pas la condition nécessaire mais celle qui est suffisante.

キーワード (Keywords) : 予定の時点・期間、前提、仮説、共起、必要十分条件、telic / atelic

はじめに

予定の時点・期間を示す前置詞*pour*と共起する動詞が、動詞のもつ語彙の意味により制約を受けることを市川(2018)で明らかにしたが、本稿ではそれを更に明確にしようとする。結論を先取りしていえば、*pour*はその意味する「予定」性から、その時点・期間の変更が含意され、共起する動詞は、その語彙の意味や時制がその変更と矛盾しないものという制約を受けるのである。

1. *pour*の使用前提

上述のようにこの用法の*pour*は、共起する動詞行為のなされる時点で予定されている時点・期間を示すのであるから、予定である以上は予定を切り上げたり延長したりという変更がつきものであることは、フランス語に限らない。変更を含意している点で、類似の意味を有する*pendant*と異なるのである。*pendant*は単に期間を示すのみで中立的 (*neutre*) であるのに対し、*pour*の示す時点・期間は種々の理由や事情により変更される可能性があるのである。

このことは自明と思われるためか、管見ではこれまで指摘されていないが、*pour*使用の重要な前提である。

(1) *pour* の使用前提

示される時点・期間はあくまで予定であり、変更される可能性を含意する。

(2a) J'ai été à Paris *pour* deux mois, mais je suis parti un mois plus tard.

(2b) *J'ai été à Paris *pendant* deux mois, mais je suis parti un mois plus tard.

次の朝倉(2002)の記述は、この前提を明示する文脈を考慮の外に置いている。

(3) *pour* は未来を示す要素を含まない文には用いられない：*J'ai été à Paris *pour* deux mois. (正：
pendant deux mois)

朝倉(2002, p.408 右欄)

他方、朝倉(1984)では(1)の *pour* の使用前提を示す文脈を除外して述べている。

(4) *pour* と動詞の制限 予定の期間は動作の行われた期間と一致するのではないから、動詞の意味・時制からして、動作が全期間にわたることを表すような文脈では *pour* は用いられない。

朝倉(1984, p.85、下線本稿筆者)

「動作が全期間にわたることを表すような文脈」とは、予定変更がなかった文脈に他ならない。そうした文脈を想定すれば、朝倉(1984)の次例は容認されない。

(5) *J'ai été à Paris *pour* deux mois.

(6) **Pour* combien de temps restes-tu à Paris ?

(7) *Je séjourne en France *pour* deux mois.

(ibid.)

容認されない理由は以下のように述べられている。

「例(5)では J'ai été という複合過去形が (…)、例(6)、(7)では一定期間にわたる動作を表す *rester*、*séjourner* という動詞の意味が *pour* と相容れない。 *pour* を *pendant* で置きかえれば、3例とも正しい文になる。」

(ibid.)

朝倉(2002)の次の記述も、動作が全期間にわたることを示す文脈を想定したうえでのものである。

(8) *rester*, *séjourner* と共にも用いない。cf. Vous comptez *rester* combien de temps en France ?

朝倉(2002, p.408 右欄)

しかし予定が変更される可能性を明示する文脈では容認されるのである。

(9) Je *reste* [séjourne] en France *pour* deux mois, mais je devrais peut-être partir à cause de ma maladie.

ここでは、rester、séjournerする動作がpourの示す全期間にわたる読みは、当然ながら保証されぬのである。

2. 動詞の語彙的な制約

市川(2018)は、動詞の語彙的な性質である「終点をもつ」(英語: telic) ことが、このpourとの共起に深く関係していることを指摘した。

(10) Je suis descendu dans un hôtel à Paris *pour* deux mois. (以下、例文番号は本稿におけるものに変更してある)

(11) Nous avons loué la villa *pour* deux mois.

(10)では動詞行為が為された時点が、pourで導かれる予定期間の開始点になると考えられよう。とすれば、動詞はその語彙的性質として「終点をもつ」(英語: telic) ことが共起するための必要条件となるのではないか。(4)の「予定の期間は動作の行われた期間と一致するのではないから」という記述は、それを云ったものであろう。(11)の動詞louerも語彙的に終点をもたない動詞のように一見思われるが、「prendre à loyer, en location, à bail」(*Petit Robert*) という語義からうかがわれるように、「賃貸契約を結ぶ」という契約書を作成した時点で終点に達する動詞なのである。

市川(2018)

ここでは、動詞(句)¹⁾がtelicであることが、この用法のpourと共起するための必要条件であることを示唆した(telicが必要条件なのか十分条件なのかは第3節で後述する)。(11)では、結果状態(état résultant)を示す大過去形が上記の「賃貸契約を結ぶ」というtelicな解釈をより取りやすくしているであろうし、「賃借している」という終点なしの(atelic)解釈をしたとしても、予定期間が変更されるのではないかとの文脈を想起させ、動詞行為louerが全期間deux moisにわたることを表すような文脈を排除していよう。続いて、次例につき以下のように指摘した。

(12) La naissance du bébé était prévue *pour* la fin du mois de septembre.

(13) C'est toujours *pour* le mois de mai ton mariage ?

(14) Ce sera *pour* un autre jour.

(15) Je ne vous attendais pas *pour* aujourd'hui.

(16) Ce n'est pas *pour dans* longtemps.

(17) ce qu'il désirait *pour après* sa mort²⁾

朝倉(1984, p.85)

市川 (ibid.) は上例に関し以下のように述べた。

(12)(15)(17)の動詞句、être prévu, ne pas vous attendre, désirerは共に直説法・半過去形に、(16)の動詞句 ne pas êtreは直説法・現在形に置かれているが、これらの動詞句の意味する行為は、いずれも pourが導く期間の開始点(前)あるいは期間中に終点に達することが理解される。(12)の出産予定は9月中にあるであろう出産の瞬間に予定ではなく現実のものとなって終わりを告げるのであり、(15)の不待機状態は vousの出現により消滅し、(17)の「願う」という行為自体も死の瞬間に途絶えるのである。(16)の事態の実現(否定形の解消)も遠い将来が始まる以前に為されるのである。

(13)(14)は例えば以下のように書き換えられるであろう。

(13') Ton mariage tombe toujours au mois de mai ?

(14') On fera ça un autre jour.

相手の婚姻も何らかの行為も予定された期間内、「5月中」や「別のある日」に為されて終点に達するのである。

市川 (ibid.)

動詞行為に終点のない (atelic) ように見える以下の例についても、同様に説明しうることを述べた。

(18) Ce serait pour plus tard.

(19) Ce sera pour quand tu seras guéri.

朝倉 (2002, p.408)

これらにつき、以下のように説明した。

(18)(19)も全く同様に、動詞句の示す事態が予定期間内である「後の時点」、「相手が回復して健康になっている期間」に実現され終結すると考えられよう。

市川 (ibid.)

以上を再考すれば、動詞行為が pourの導く全期間にわたるという解釈を生む文脈を排除すること、すなわち pourの導く時点・期間の変更を含意する解釈を可能にする文脈こそが、その動詞句と pourとの共起を可能にするために本質的であると考えられる。そこで次の仮説を措定する。

(20) 時点・期間を導く pourと動詞句との共起可能性についての仮説

動詞句の示す行為が pourの導く期間内に生じる、あるいはその全期間にわたるという解釈を排除することが、共起するために必要十分である³⁾。

この仮説の妥当性について、市川 (ibid.) で引用した次の例を再考する。

- (21) Tu en as *pour jusqu'à minuit*.⁴⁾
- (22) Tu es *pour* longtemps ici ?
- (23) Il nous y invite *pour* aussi longtemps que nous voulons.

朝倉 (1984, p.85)

再掲する次例と比較して、

- (5) *J'ai été à Paris *pour* deux mois.
- (6) **Pour* combien de temps restes-tu à Paris ?
- (7) *Je séjourne en France *pour* deux mois.

市川 (ibid.) では以下のような説明を与えた。

(21)(22)(23)では、動詞句自体は終点をもつとは云えぬものの、話者・聞き手間で、動詞句が置かれている時点 (すなわち発話時) と *pour* 以下の予定の期間とは質的に異なった時間と意識されているのである。したがって、動詞行為はその境界で云わば強制的に終点に到達させられるのである。例えば (22) では、être ici maintenant と云う動詞行為は終点に達し、予定期間では類似だが別個の être ici même dans longtemps という動詞行為を措定しているのである。その点で同質の行為が持続している (5)(6)(7) とは容認性が異なるのである。

市川 (ibid.)

これはむしろ次のように説明すべきではないか。

(21)(22)(23)は、それぞれの動詞句の行為 en avoir, être ici, nous y inviter が不意にいつ切り上げられ終了するか不確かであることが含意されており、仮説 (20) の「動詞句の示す動詞行為が *pour* の導く全期間にわたるという解釈を排除する」とまではいえないにせよ、全期間にわたるという解釈を「担保しない (明示しない)」のではないか。それ故、仮説 (20) を次のように修正する。

(24) 時点・期間を導く *pour* と動詞句との共起可能性についての仮説 (修正)

動詞句の示す行為が *pour* の導く期間内に生じる、あるいはその全期間にわたるという解釈を排除する、ないしは担保しない (明示しない) ことが、共起するために必要十分である。

次節では、修正した仮説 (24) の妥当性を検証する。

3. 仮説の妥当性

Lingueeというインターネット辞書サイト (<https://www.linguee.fr/>) で検索した実例を観察し（各実例の出典は煩雑を避けるため一々記さないで、上記サイトを参照されたい）、仮説(24)がまず、共起するための必要条件たりうるかを検証する。例文末尾の[]内は動詞句の示す行為の telic/atelic の別を示す。

- (25) On nous a expliqué, par la suite, que l'employée bilingue était en formation *pour* deux jours.
[atelic]
- (26) Bien que cette exposition n'ait été prévue que *pour* deux jours, de nombreux délégués ont utilisé les poses café pour prolonger leur visite. [atelic]
- (27) Les garde-côte (*sic*) sortent normalement *pour* deux ou trois jours à la fois et nous en avons trois donc ils établissent une rotation. [telic]
- (28) Nous sommes ici *pour* trois jours ; le dernier jour sera une campagne portant le nom « Aime ton prochain » dans une salle [...] [atelic]
- (29) L'expert a été informé que le 23 août 2001, sept sultans avaient été arrêtés puis relâchés et 18 autres mis en prison *pour* huit jours. [telic]
- (30) Elle auditionne à “l'Ecluse” où elle est engagée *pour* huit jours. [atelic]
- (31) Le tarif spécial, qui inclut le petit-déjeuner, les taxes et le service de chambre est valable *pour* huit jours avant et après les dates du Congrès. [atelic]
- (32) Une stratégie ne dit cependant pas encore qui doit faire concrètement quoi ni *pour* quand. [telic]
- (33) La lettre a l'avantage de donner à [...] l'entreprise ou au gestionnaire qui la reçoit plus de temps pour décider si il ou elle accepte l'entretien et *pour* quand. [telic]

上例は、*pour*の後に数詞か疑問副詞 *quand*が続くものである。telicが多数を占めるのではないかとの予想に反し、telic/atelicの割合は半々であった。

*pour*の後に従節を導く *quand*が続く例を以下に掲げる。

- (34) [...] donne d'obtenir de l'information *pour* l'école et d'avoir accès à des « jeux *pour* quand on s'ennuie (si on n'a pas de CD) ». [telic]

- (35) Si vous voulez juste des rythmes pour vous éclater, continuez sur votre lancée et laissez les figures *pour* quand vous jonglerez avec quelqu'un de moins stressé (ou zen) que vous. [atelic]
- (36) Il existe quelques dispositions qui sont présentées par les spécialistes comme pouvant servir de substitut pour quand même dédommager la victime. [atelic]
- (37) par un comité restreint, il est important d'avoir des règlements en place *pour* quand un comité restreint sera requis. [atelic]
- (38) Il en va de même *pour* quand nous donnons d'autres choses telles que notre corps, notre cœur, notre temps, et nos talents [...] [atelic]
- (39) [...] l'une de ces îles mystérieuses tropicales et ont besoin d'une super lumière *pour* quand votre exploration des grottes sombres ou tout simplement juste a plus [...] (sic)[atelic]
- (40) [...] considérez comme un ennemi, (mais vous devez rester ouvert *pour* quand) le temps viendra où il aura besoin de votre aide. [atelic]

*pour*が接続詞 *quand*を導く上例では、*quand*の従節で記述されるのは、期間というより時点であることが見て取れる。ここでも予想に反し、*atelic*が多数を占めた。期間というより時点を表示している場合、仮説(24)の「動詞句の示す行為が*pour*の導く全期間にわたるという解釈を排除する」とはいい難く、「*pour*の導く全期間にわたるという解釈を明示しない」というのが精々であろう。

次いで、*Trésor*掲載の例を観察する。

- (41) Mes parents lui ont arrangé notre ancienne chambre, à Georges et à moi, en cabinet de consultation, *pour* quand il aura de la clientèle (GIDE, *Faux-monn.*, 1925, p.955). [telic]
- (42) J'suis inapte! Gaspard en eut de la joie *pour* trois jours (BENJAMIN, *Gaspard*, 1915, p.112). [atelic]
- (43) – Avez-vous des enfants? Pouvez-vous les nourrir ? Je peux.
– Bien. Votre mari ira en prison *pour* six mois. (MORAND, *New-York*, 1930, p.184.) [telic]

(41)では、*pour* *quand*節前の動詞句は *telic* になっており、複合過去形が従節に対する結果状態を表している。

以上の観察から、仮説(24)が動詞行為と*pour*との共起のための必要条件であると、大づかみにはいえるようである。

今度は逆に、仮説(24)が共起のための十分条件であるか検証する。

(5) *J'ai été à Paris pour deux mois.

(2a) J'ai été à Paris *pour* deux mois, mais je suis parti un mois plus tard. [atelic]

(7) *Je séjourne en France pour deux mois.

(9) Je reste [*sijourne*] en France *pour* deux mois, mais je devrais la quitter à cause de ma maladie. [atelic]

上記の前掲例と同じく、次例、

(44) La naissance du bébé était prévue *pour* la fin du mois de septembre, mais malheureusement je ne serai pas là même début octobre. [atelic]

からも分かる通り、動詞行為が*pour*の導く全期間にわたるという解釈を生む文脈を排除出来れば、両者は共起可能であり、したがって仮説(24)は共起のための十分条件でもあるといえそうである。より多くの例を検討したとしても、むしろ、論理的に厳密には言明出来ないことではあるが、実際の使用に差し支えない程度には措定出来よう。

またずっとふれてきた動詞句のtelic/atelicの別は、引用例にatelicの例が頻出することから、telicであることは共起するための必要条件ではないし、他の前置詞enが使用可能であることから十分条件でもないことになる。

(45) *Je comptais finir le travail *pour* trois jours mais ... [telic]

(45') Je comptais finir le travail *en* trois jours mais ...

また以上見てきたように、(24)が妥当すると考えられるから、動詞句の時制との共起制約は、*pendant*と異なり存在しないのである。

(46) Je restais à Paris *pour* deux mois quand soudain la guerre a éclaté.

(46') *Je restais à Paris *pendant* deux mois quand soudain la guerre a éclaté.

結論

予定の時点・期間を示す*pour*はその使用の前提として、*pour*で示される時点・期間があくまで予定であり、変更される可能性があることを含意する。したがって動詞句とこの*pour*との共起は、

(24) 時点・期間を導く*pour*と動詞句との共起可能性についての仮説 (修正)

動詞句の示す行為が*pour*の導く期間内に生じる、あるいはその全期間にわたるという解釈を

排除する、ないしは担保しない（明示しない）ことが、共起するために必要十分である。

ということになる。

また動詞句の telic/atelic の別は、この pour と共起するための必要条件でも十分条件でもないと考えられる。

注

- 1) telic/atelic の別を考察する際には、表される行為を明確にするため、動詞単独ではなく動詞句全体の意味を解釈することが不可欠であることは市川 (2018) でも触れたが、ここでは pour 以下の時点・期間は動詞句に含めてはならない。この時点・期間と動詞句の意味との関係が、両者の共起可能性を決定しているからである。
- 2) この例 (17) はここで扱っている「予定の」時点・期間を導く pour の用法とは異なるものであり、「死後のために（生前に）望んでいた」と解すべきであろう。
- 3) 必要十分条件を考える際に、動詞句と pour の導く時点・期間とが意味の上で矛盾しないことを前提とせねばならぬことは無論である。
- 4) (21) の en avoir pour は成句ではあるが、母語話者によれば冗長 (redondant) で pour がない方が容認可能性は向上するようである。(21) ?Tu en as pour jusqu'à minuit. (21') Tu en as jusqu'à minuit.

Références bibliographiques

- 朝倉 季雄 (2002) 『新フランス文法事典』白水社、p.408.
 — (1984) 『フランス文法メモ』白水社、pp.84-85、朝倉 (2005) 『フランス文法集成』白水社、pp.407-408 に再掲。
 市川 雅己 (2018) 「研究ノート：予定の時点・期間を示す前置詞 pour—現代フランス語における動詞の語彙的な共起制約—」『文学部論叢』第109号、pp.61-64。
 GREVISSE, Maurice, GOOSE, André (1986) *Le Bon usage*, 12^e éd., Duculot.
 ROBERT, Paul et al. (2008) *Le Nouveau Petit Robert de la langue française*, Dictionnaires Le Robert.
Trésor de la langue française (1971-1994).